

妊娠期における子ども虐待予防のための父親支援に関する研究

地域看護学領域 上田 泉 教授



Q. この研究に取り組んだ背景は何ですか？

A. 近年、子ども虐待の問題は社会の中で深刻な状況です。私は、子ども虐待予防のためには、子どもが生まれる前、妊娠期からの支援がひとつ重要であると考えています。

妊娠期における支援には、行政、民間、病院などの施設において、母親学級、両親学級など教室活動や最近では妊婦訪問など相談活動もあります。従来の支援は母親が中心であり、父親へは母親のサポート役割の期待として育児行動を伝える、親役割を促すという内容が多いと感じています。これからは子ども虐待予防という観点で父親を中心に据えた支援がもっとあっても良いのではないかと考えるようになりました。

Q. この研究の目的、方法について教えてください。

A. 今回の研究では、まず子ども虐待予防を重視した妊娠期における父親支援ニーズをアンケート調査より明確にしたいと考えています。そして、父親のニーズに立脚した支援プログラム(日本版BPP)を開発する予定です。

米国ワシントンで開発されたBPP*は、妊娠期のカップルを対象に、夫婦のパートナーシップを強化すること、特に父親への移行に重点をおいた体験型プログラムです。ただいま、研究班でBPPの図書を翻訳中です。文化的社会的背景が異なりますので、そのまま日本には導入できないため、日本における父親支援ニーズを把握し整理すること、これまでの研究結果と統合してニーズフレームワークを作成することを目指しています。*BPP(<http://www.becomingparents.com/>)

Q. これまでの主な研究成果と将来の展望を教えてください。

A. これまで、乳幼児の虐待事例・虐待リスク事例における父親の特性研究では、保健師が捉えた虐待事例の父親のリスク要因を明らかにしました。引き続き、実施した研究では、妊娠期に必要な父親のコンピテンシー(能力)として、①父親役割の認識、②知識と行動の獲得、③共感力の向上、④夫婦関係の醸成、⑤周囲の人との関係構築であることを明らかにしました。

妊娠期の母親、父親へインタビューした結果からは、母親から父親への役割期待は大きい反面、父親自身は役割や想像力の期待が求められる一方で、情報、資源も乏しく、孤立しがちな状況を理解することができました。

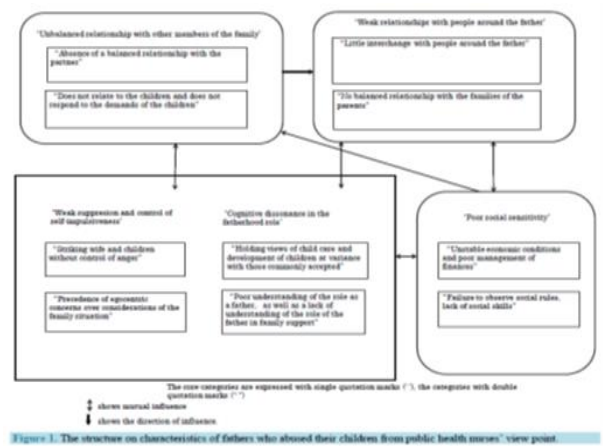


Figure 1. The structure on characteristics of fathers who abused their children from public health nurses' view point.

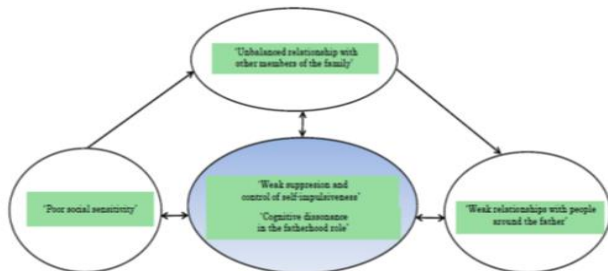


Figure 2. Characteristics of fathers who abused their children from public health nurses' view point.

これから妊娠期に必要な支援は、夫婦間でコミュニケーションを円滑にする、感情をコントロールする等の体験型の学習プログラムが有効であると考えます。子ども虐待予防を目指して、夫婦関係を強化するために、これまで日本にはない新しい支援プログラムを構築したいと考えています。

もう少し知りたい!と思った方はこちらへ

・看護学科 地域看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ns/ns_chiiki.html

・専攻科公衆衛生看護学専攻 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/a_phns/

・大学院保健医療学研究科看護学専攻地域看護学分野 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/g_ns/g_ns_chiiki.html